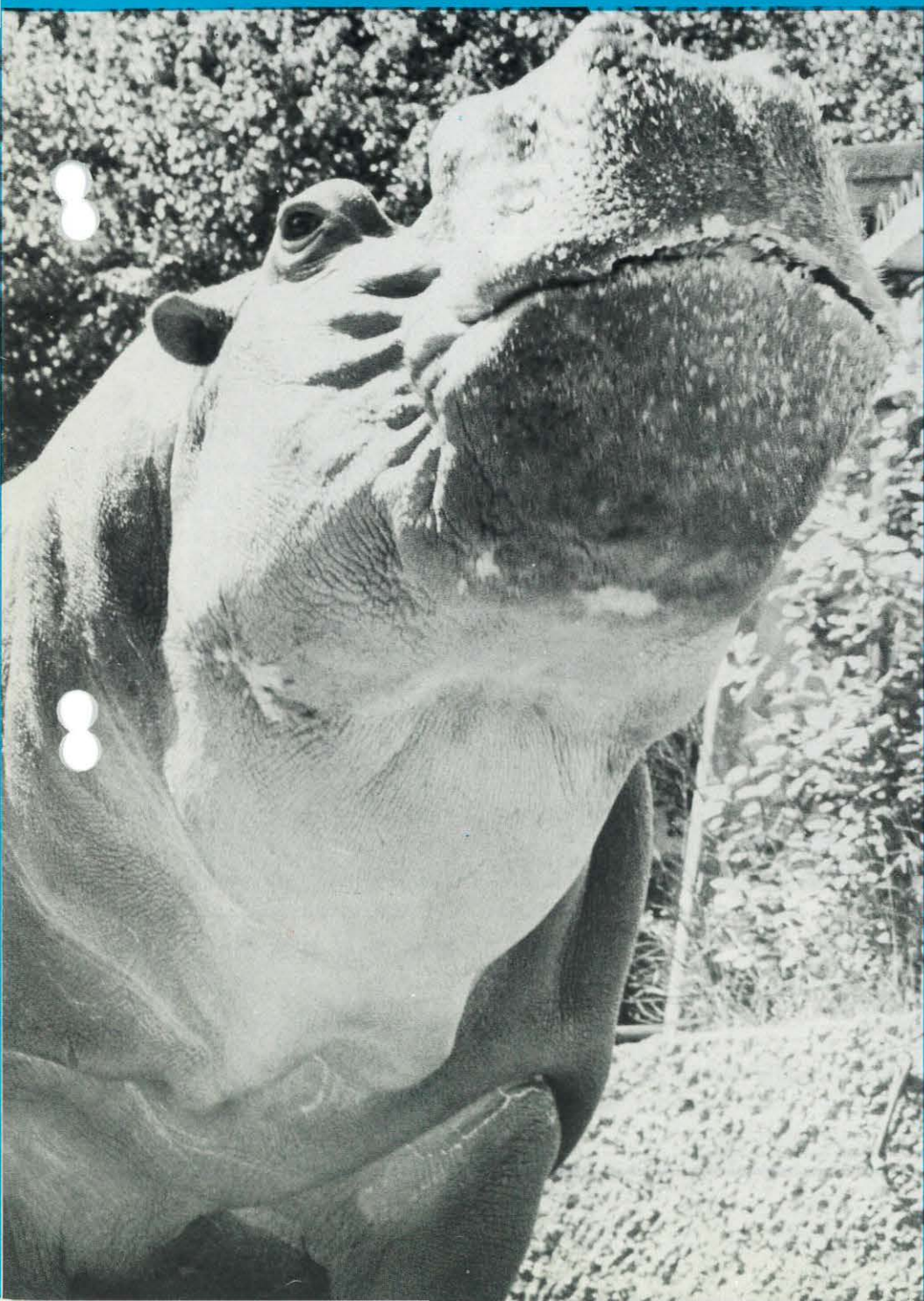


# なきごえ



1979

10

大阪市  
天王寺動物園協会

## 動物と私



原田正史

夏の夕空、公園や小さな広場の上をヒラヒラと飛ぶ者がいる。コウモリである。これはイエコウモリという種類で、一生懸命に小さな虫を追って、すばやく急降下しては虫を捕

えている。

コウモリを鳥の仲間と思っている人が時々ある。コウモリは哺乳類であり、卵ではなく、りっぱなハダカの子を産む。母親の胸にはりっぱに1対のオッパイがついており、仔は母親の胸にしがみつき、乳を吸う。

コウモリは飛ぶことのできる唯一の哺乳類である。ムササビやモモンガは体間膜を広げて空を滑空するだけである。コウモリも空を飛ぶ前は彼らのような姿で夜空を滑空していたと考えられている。

コウモリのすみ家はイエコウモリのように家のカベ板のすきまや屋根裏にあるもの、よく知られているように洞穴をすみ家とするもの、原生林の大木のほこらをすみ家とするものがある。すみ家によってコウモリの種類も異なるのである。いつも不思議に思うのだが、コウモリは巣をつくらない。木の穴も自分であけたものではない。自然にできたもの、人やその他の動物が作った穴をさがして、すみつくのである。自分で穴を掘ったり、鳥のようにコケや土をかためて、小型の洞穴でも作れば、もっと住める場所が広がるのであるが。天井などにぶらさがり変わる者が他にいなかったの、住宅難にならず、巣を作ることを忘れてしまったのかもしれない。する

と、逆さまになった時に巣作りを忘れてしまったことになる。仔も産まると授乳中以外は天井にぶらさがっている。時には母親の胸にしがみつき、母親と一緒に夜の散歩に出かける。そのために仔の足は生れた時から大きくりっぱである。

コウモリの種類は全部で約千種おり、ネズミ類について哺乳類のなかでは種類の多いグループである。夜と空という他の動物が使わなかった空間を1人じめしている。

エサは大部分の者が昆虫食である。彼らが、1晩に2gの昆虫を食べるとすると、数万頭いる地域での彼らの虫をたいじする力がどれほどすごいかわかると思う。熱帯に行くとオオコウモリの種類がたくさんいる。彼らは一般に果実、花粉、蜜をエサとしている。動物園でも時々見かけるが、彼らはバナナなどを好んで食べる。変わった物を食物とすると言えば、第1に思い出すのが血である。吸血コウモリは中南米にすみ、家畜をおそう。吸血されることより伝染病の媒介者として恐れられている。するどいカミソリのような歯で傷をつけ、流れ出る血をなめる。唾液に血をかたまらせない物質が入っているとわれ、彼らがなめつづけている間、血はとまらないのである。食べた血はあまり消化する必要がないので、胃や腸など退化が進み、短くなっていると言う。ウオクイコウモリは水面近くを泳いでいる小魚をするどいツメで捕え、食べ、アラコウモリはネズミや他のコウモリでさえおそって食べる。

コウモリはまた冬眠や寿命が小型哺乳類と比較して長いなど、興味ある問題がたくさんある。私はこのコウモリの種類がどのようにして多くの種にわかれていったかを研究テーマにコウモリを追い求めている。

(大阪市立大学医学部実験動物研究室助手)

### なきごえ10月号もくじ

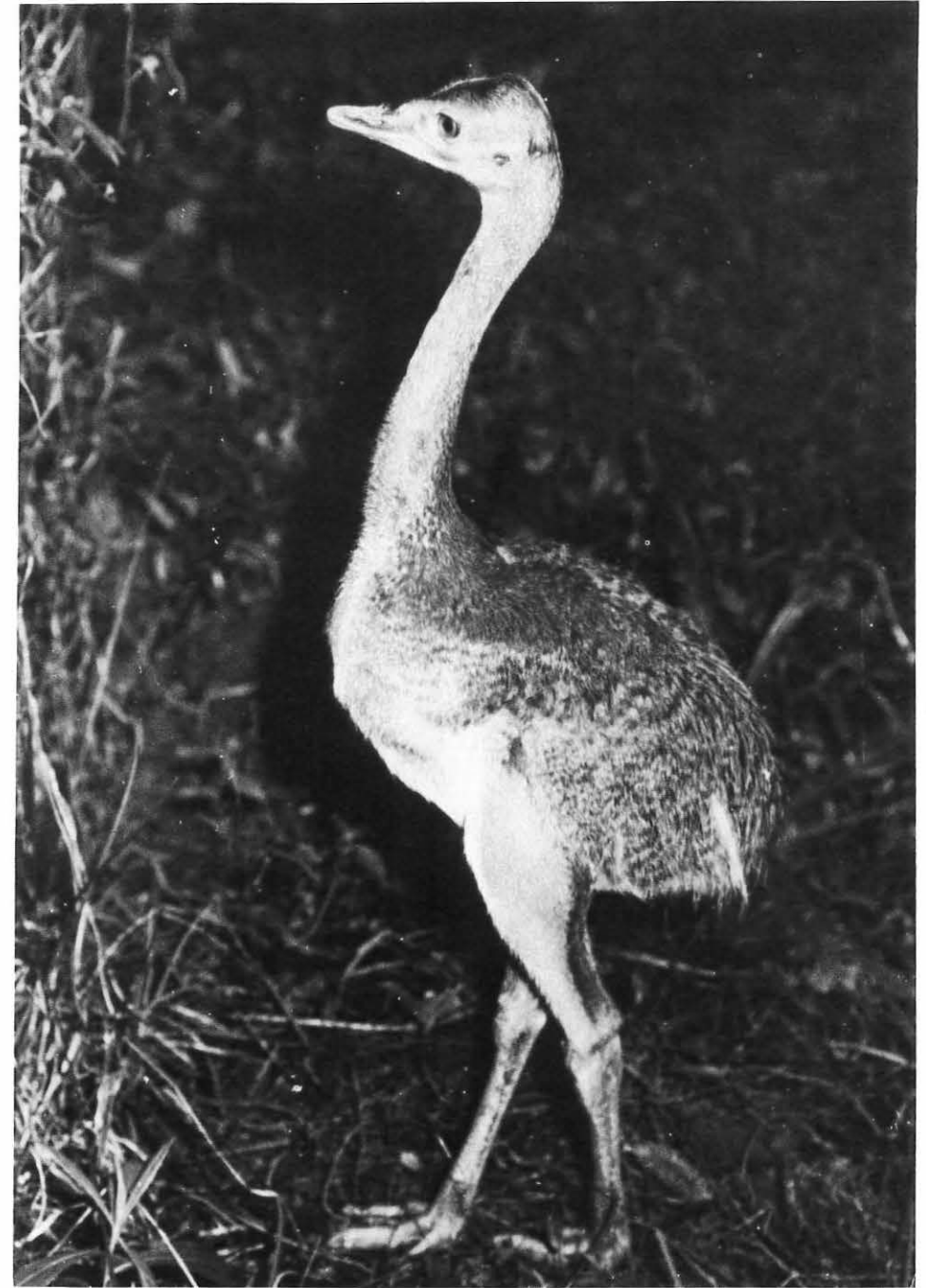
|                   |     |
|-------------------|-----|
| 動物と私              | 2   |
| “レア”の赤ちゃん         | 3   |
| 動物園グラフ・動物園日記      | 4・5 |
| フタコブラクダの人工哺育      | 6・7 |
| アメリカ西海岸・動物園めぐりの旅Ⅲ | 8・9 |
| キーパーズ・アイ⑫         | 10  |
| 動物園ニュース           | 11  |

### 表紙の写真説明

“カバ”

天高く河馬肥ゆる秋！ 食欲の秋をむかえてカバのお父さんの食欲もモリモリ、大きな口をあけて食べる姿は迫力満点です。

(撮影：農本 武志)



### “レアの赤ちゃん”

8月19日、レアが1羽ふ化しました。当園でレアの繁殖は初めてのことで、ふ化日数は42日でした。

ふ化時の体重は400gでしたが、採食量も日ごとに増加し、10月初旬には2kgにも成長しました。

(撮影：仲谷 登)

# 動物園グラフ

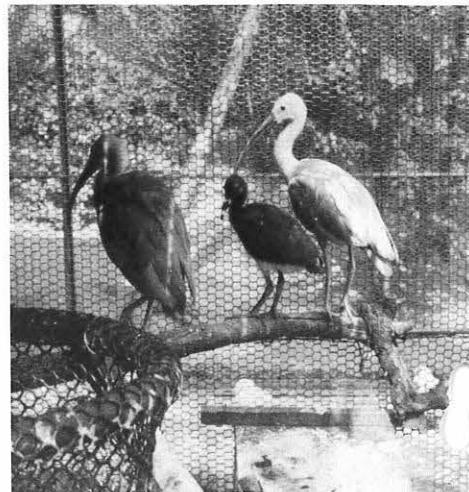
## “赤ちゃん特集”

6月から8月にかけて誕生した赤ちゃんを特集してみました。中でもベニジュケイの繁殖は日本の動物園でも初めてのことです。



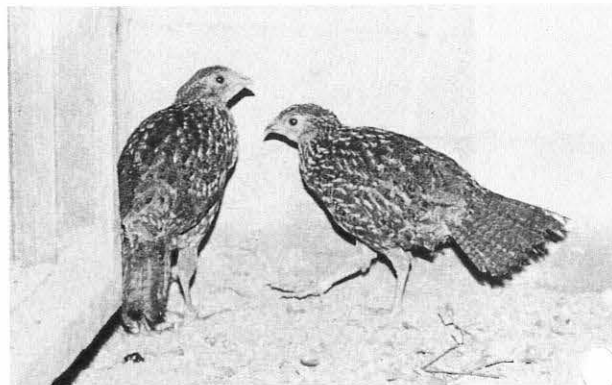
ピューマ

7月7日誕生、オス、メス  
母親は5回目の出産だけに、赤ちゃん2頭も順調に成育しています。



ショウジョウトキ

8月31日ふ化  
中央にいるのが、誕生したヒナで（生後1ヶ月令）、今年2羽目の誕生です。



ベニジュケイ

6月16日、7月20日ふ化  
昭和52年11月に上海から贈られ、今年初めて繁殖に成功しました。



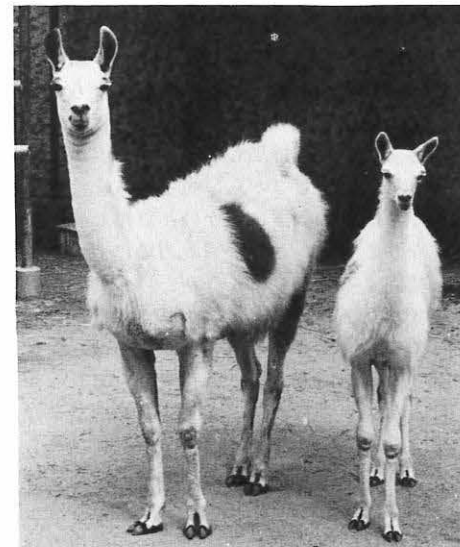
リスザル

7月31日誕生  
母親のフーちゃんは初めての出産でした。赤ちゃんはサミーと名付けられ、元気一杯です。



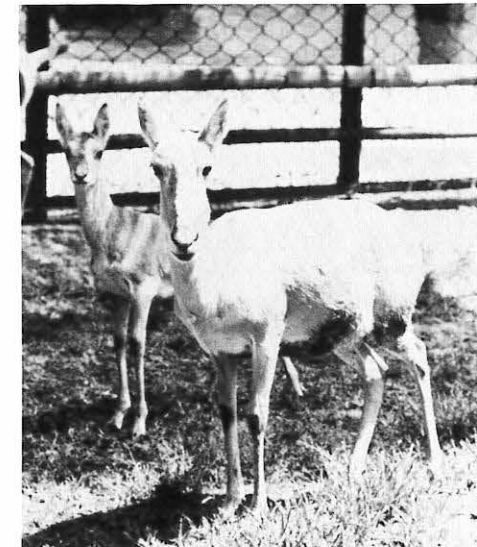
バーバリーシープ

6月21日誕生、メス  
今年は3頭生まれています。母親と一緒に急斜面を登るのもへいさやらです。



ラマ

6月21日誕生、メス  
母親は初めての出産でしたが、じょうずに育てています。



モウコガゼル

6月18日誕生、メス  
当園で2頭目の誕生ですが、世界でもこの2例の記録だけと思われる。

## 8・9月の動物園日記

- 8/22. 入院中のパカとマレージャコウネコは、投薬を続けています。
- 25. ケニアスナボア6匹とフロリダキングスネーク6匹の寄贈がありました。ヤギ6頭の削蹄を行いました。
- 26. ハナシカが本年9頭目の赤ちゃんを出産しました。ニホンシギのオスが啄傷で死亡しました。
- 27. ヤスリヘビが入園以来11ヶ月間、何も食べ

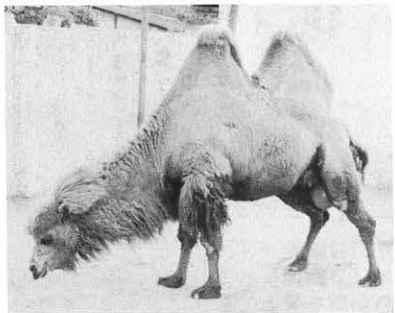
- ないので、初めてフナを差し餌したところ食べてくれたのでホッとしました。先日入園したフロリダキングスネークが2匹共喰いされました。
- 31. ショウジョウトキの卵が1卵ふ化しました。ふ化日数は23日でした。
- 9/1. 6月にメルボルン動物園より入園したワライカワセミが2卵産卵しましたが、破卵していました。
- 2. パンが4羽ふ化しました。ヤギが下痢をしているので、下痢止めの注

- 射をしました。
- 9/3. オオハクチョウの食欲不振が続き、衰弱が著しいので、栄養注射をしました。
- 6. 去年9月に入園したサンバードが1羽死亡しました。これで残るは1羽だけになりました。
- 8. シロテテナガザルが1頭入園しました。
- 10. オグロレーサーが、隣のシュウダの部屋に入り食べられてしまいました。
- 11. ダマシカの後肢を再固定しました。
- 15. フンボルトペンギンが死亡しました。

- ヤギが3頭の赤ちゃんを出産しました。
- 16. ショウジョウトキのヒナは順調に育っています。
- 17. サイが交尾をしました。
- 18. ベイサオリックスのメスは左角を金網につかけて折りました。カササギサイチョウが前腕骨折で死亡しました。
- 19. ニホンジカのオス（2本角以上）5頭の袋角がすべて脱落しました。

# フタコブラクダの人工哺育記録

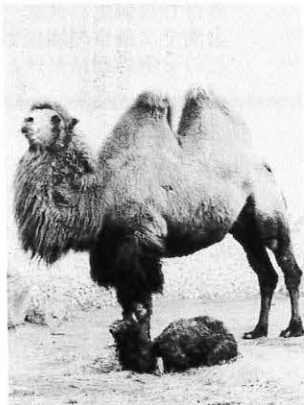
当園では過去に2回の人工哺育の記録がありますが、今回の人工哺育については、割りとスムーズに人工哺育が出来ました。さて、今回人工哺育を行なったのは、3月3日生まれの子の個体であります。3月3日午前11時頃、入園者の通報でかけつけてみますと、丁度破水寸前の状態でありました。前日より出産の兆候はあり、前日午後7時過ぎ迄観察をしていたのですが、とうとう出産せず、3日に持ち越されたものでした。出産は難産で困難をきわめ、午前11時15分に破水し、11時20分には仔の頭部と、左前肢は出たのですが、右前肢が母体の体内でひっかかっているのか、なかなか出ませんでした。そして、結局12時10分、陣痛促進剤を注射し、陣痛の波に合わせて、2人がかりで座っている母親から、仔を引っぱり出す事にしました。



そして、12時15分に仔を引っぱり出す事に成功しました。仔は、ラクダの子としては普通の大きさと思われましたが、なかなか起立しようとせず、起立しようとしても、前方に倒れ込んでしまう有り様で、どうやら前肢が少し弱いと思われました。こんな状態が続く、授乳がうまく行かず再三強制的に起立させ、仔の体を保定しながら母親の乳首に吸い付けようと試みましたが、いずれも失敗に終わりました。あげくの果て、仔の体に人間の臭いが付いた為か、母親が仔を避ける様になってしまいました。その後様子を見ていましたが、仔は依然として母親の乳首をさぐろうとせず、又、母親も仔に対して無関心な態度をとり続けましたので、止むをえず、午後6時頃、とり

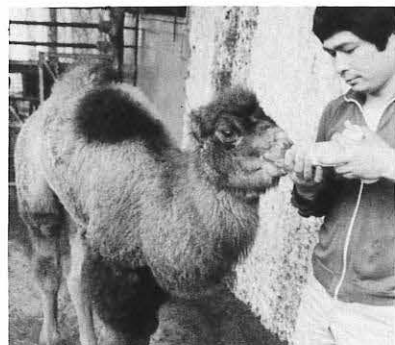


ええず山羊の乳を採乳し与える事にしました。幸いにも、2頭の採乳可能な山羊が山羊舎にいましたので、その個体から採乳し、6時20分に1450ccを飲ませました。その後も母親が仔を避ける状態が続きましたので、結局人工哺育に踏み切る事にしました。



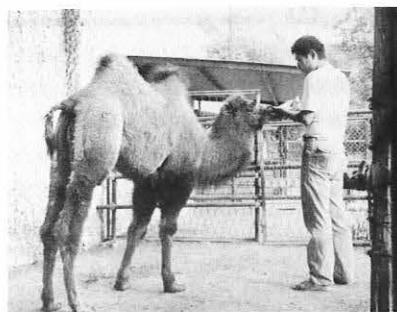
ええず山羊の乳を採乳し与える事にしました。幸いにも、2頭の採乳可能な山羊が山羊舎にいましたので、その個体から採乳し、6時20分に1450ccを飲ませました。その後も母親が仔を避ける状態が続きましたので、結局人工哺育に踏み切る事にしました。

翌4日からは、山羊乳と牛乳を混ぜた混合乳を与えましたが、下痢もせず拒否反応も示さずスムーズに飲んでくれました。しかし、離乳期の事を考え、仔を完全に親達と隔離飼育しないで、ラクダ舎運動場の一角を仕切って、絶えず仲間と接する様にしました。仔は早でしたので3月3日に因んで、ミミーちゃん、節句に因んで、セッチャン等数多い候補名の中から、ヒナ祭りに因んで、ヒナコと名付けられました。ヒナコは順調に授乳しましたが、母親は、産後の体調が悪く、オロを排出したり、餌を食べない日が続きました。しかしながら、抗生物質を注射する事によって、徐々に回復に向かい、日増しに体調も元通りになりました。さて、哺乳方法については、1日4回哺乳する事にしましたが、(午前9時、正后、午後3時、7時)哺乳量は、仔が飲むだけ飲ます様にしました。混合乳の配合については、徐々に牛乳の割合を増加させて行く事にしましたが、この配合した乳をスムーズによく飲んでくれました。乳首については、人間用乳首を使用していましたが、過去のラクダの人工哺育の終験者のアドバイスから、牛用の乳首を一升ビンに付け与える方法を試みたのですが、飲みにくそうなので、人間用乳首を続けて使用する事にしました。3月6日に体重測定を行なった結果51.3kgあり、下アゴの門歯が、2本出ていました。翌7日には、52.3kgになり、体長117kg、体高110cmが確認されました。この頃からは心配された前肢もしっかりとしだし、時折走る仕草が見られ始めました。人工哺育を行なってから、仔は順調に成育しましたが、便の排出がなく、布でこすってやっても、排便しない日が続きました。3月7日には胎便からミルク便に変わっていったのですが、排便は余り見られず、16日には浣腸を行ないました。こういう状態は過去にラマの人工哺育の時にも見られましたが、他園でのラクダの子の便秘状態はある、と聞いていましたが、こんな状態は、ラクダの仲間の特徴のようです。16日に浣腸を行なってからは、少量であるが排便が確認される様になりました。



そして、3月22日より牧草で遊ぶ仕草が見られる様にもなりました。4月3日からは粒状便になり、4月9日からは、フスマ、パン屑等を少量口にする様になり、4月22日頃からは、キャベツ、人参等の細かく切った濃厚飼料を食べる様になりました。この頃になると、ラクダのシンボルである背中の2つのコブも直立して、生まれた当時黒っぽかった体色も、やや薄い体色に変化してきました。

運動量もかなり激しく、入園者の帰った園内を走らせると、喜んで無人の園内を走り回っていました。5月5日に測定したところコブの高さは10cmぐらいに成長し、当園の駐車場で走り回る姿がいかにも、「ラクダの子」という感じになってきました。その



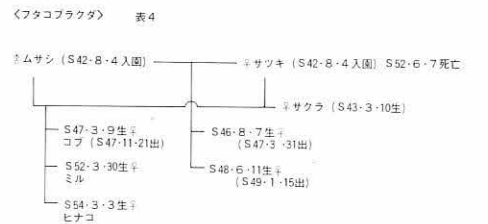
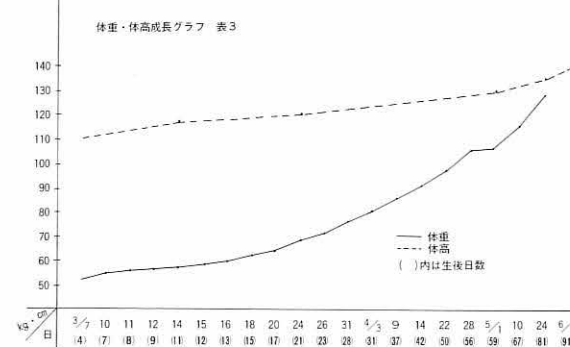
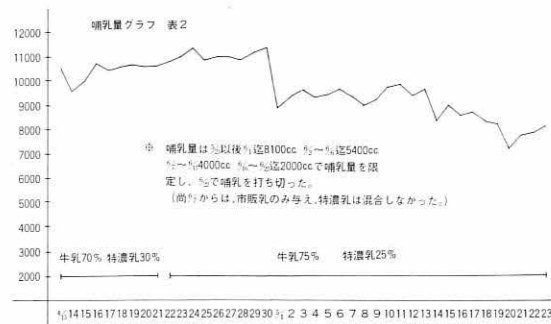
そして、3月22日より牧草で遊ぶ仕草が見られる様にもなりました。4月3日からは粒状便になり、4月9日からは、フスマ、パン屑等を少量口にする様になり、4月22日頃からは、キャベツ、人参等の細かく切った濃厚飼料を食べる様になりました。この頃になると、ラクダのシンボルである背中の2つのコブも直立して、生まれた当時黒っぽかった体色も、やや薄い体色に変化してきました。

運動量もかなり激しく、入園者の帰った園内を走らせると、喜んで無人の園内を走り回っていました。5月5日に測定したところコブの高さは10cmぐらいに成長し、当園の駐車場で走り回る姿がいかにも、「ラクダの子」という感じになってきました。その



後、6月3日には、約20cm、9月3日には約25cmぐらいの高さになっており、コブ周りもかなり厚みが出て来ました。体高も順調に成長し、8月3日には、約140cm、9月24日には約150cmとなり、もう立派な娘ラクダに成長してきました。成長すると同時に体重測定も困難になってきたため、5月24日の体重測定を最後に打ち切る事にしました。今後も可能な限り、記録はとっていききたいと思います。

(飼育課：葭谷文彦)



# アメリカ西海岸・動物園めぐりの旅 III

## § ロスアンジェルス→サンフランシスコ

すばらしいコバルトブルーの空だったロスアンジェルスに後に空路サンフランシスコへと向かいました。サンフランシスコはロスアンジェルスと同じカリフォルニア州の中にあるのですが、霧と坂の街のサンフランシスコはロスアンジェルスとはまったく感じの異った街でした。6月21日、サンフランシスコ動物園を見学しました。

正門でキップを売っている人に、園長のKitchener氏と会いたいと言うと事務所のある所をメモ用紙に書いてくれました。そのメモを見ながら、私は園内に入っていました。ロスアンジェルスやサンディエゴの動物園が良すぎたためか、なにかものたりなさを感じながら事務所にたどりつきました。

事務所の中に入って事務員の方に、Kitchener氏に会いたいと伝えると、今、不在との事でした。事務員の人は、少し待つようにと私を会議室に案内して下さり熱いコーヒーを入れてくれました。この会議室には動物関係の本が数多く置かれていました。

少ししてさきほどの事務員の人が来て、園長が帰ってくるのが少しおそくなるとの事だったので、私は1人で園内を見学して、又後で事務所にもどる事を伝え、見学に向いました。サンフランシスコ動物園は、海岸のそばにあるためか、園内に野生のカモメが数多く見られました。アシカ池の前で売られている魚をねらっているのか、入園者が魚を買ってアシカに与えるのをじっと待っていました。さしずめ日本の動物園のハトの様なものではないでしょうか！ 又、園内にある森の中から野生のリスがかわいい仕草で、

入園者にエサをねだっていたりして、とてものんびりしたムードがありました。この動物園の特長は、社会教育的動物園をめざしている事で、ボランティア活動も活発で、又、園内の説明札もイラスト入りで判りやすく動物学の説明等をしてあ



とても人なつこいタイラ

ります。動物舎は樹木で美しく区切られており、園内のいたるところに設置されているスプリングラーからたえず水がまかれ緑がいっそうきらめいて美しく園内を見せています。ウォーターバック、ブラックバックなどの放飼場も地面はすべて緑のじゅうたんをしきつめた様に草が茂っています。1時間程園

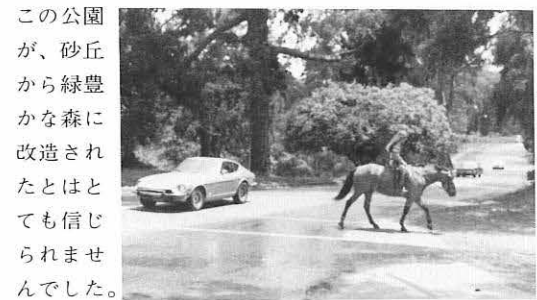
内を見て、私は事務所にもどりました。そこで園長のKitchener氏が笑顔で迎えてくださいました。そして園長室でサンフランシスコ動物園のガイドブック等の資料をいただきました。そして日本から来た手紙に、私が担当しているジャングルキャットが繁殖に成功した事が書かれている事が話題になり、サンフランシスコ動物園でも繁殖に成功し、黒変種のジャングルキャットが生まれたとの事で、かならず見ていきなさいといわれました。Kitchener氏はこれから又、用事があるとの事なので、ここでお礼をいってわかる事にしました。最後にKitchener氏は、園内を回っているゼブラ列車に乗りなさいと言ってくださいました。

事務所を出た後、私は黒変種のジャングルキャットを見ました。そして子供動物園前から出ているゼブラ列車に乗りました。列車はモンキーアイランド、熊舎、ライオンハウス、ゾウハウスなどをめぐって20分位園内を回りました。

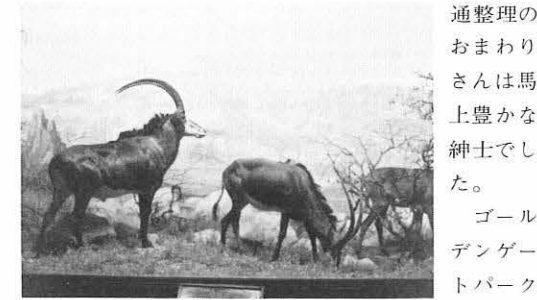
## § とつともなく広い人工公園のゴールデンゲートパーク

次の日、私はゴールデンゲートブリッジの近くにある、ゴールデンゲートパークの中にある科学アカデミーにいきました。科学アカデミーに行く途中この公園の広さにはびっくりし、又、うらやましくも思えました。

公園というよりもまったくの自然の森の様でした。



この公園が、砂丘から緑豊かな森に改造されたとはとても信じられませんでした。公園内では、のんびりと馬に乗っている人や、スポーツを楽しんでいる人がたくさんいました。そしてこの交通整理のおまわりさんは馬上豊かな紳士でした。



まるで生きている様なセーブルアンテロープの中心部

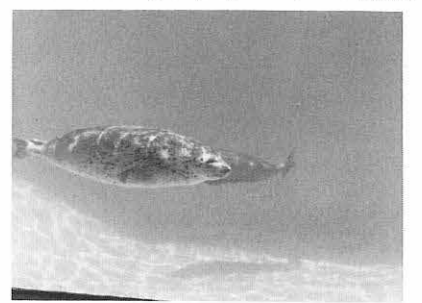
にある科学アカデミーに昼前に着き、昼食をすませた後、科学アカデミーを見学しました。広い館内はアフリカ館、北アメリカ館、水族館等に分かれています。

アフリカ館では自然の中で生きている様に見える程すばらしいはく製が展示されています。マウンテンニヤラ等がジオラマによってはく製ではなくてほんとうに生きている様に見えます。北アメリカ館では、北アメリカに生息する鳥のはく製がきれいに展示されていました。又、北アメリカの自然を紹介するコーナーもありました。別館にある水族館には、イルカやゴマフアザラシ等が



マウンテンニヤラ

プールせましと泳いでいました。水族館のプールで泳いでいるアザラシ



§ 野生のラッコを見にモントレイへ

6月23日に野生のラッコが生息しているモントレイに行く事にしました。前日にホテルの中にあるグレイライン社のバスツアーのカウンターで、モントレイ方面観光のツアーの予約をしました。モントレイはサンフランシスコから海岸線に沿って南に220kmの所にある半島で、その半島を一周する17マイルドライブと呼ばれる有料道路の中に、Otter Pointがあり、その海岸沿いにラッコが生息しているのです。朝9時に観光バスは一路モントレイへと向いました。そして昼前にモントレイのフィッシャーマンズワーフにつきました。ここで昼食をした後、17マイルドライブへと向かいました。

途中、昔のサーディン工場の後を利用したギフトショップにより、ラッコの人形や、ラッコの絵のかかけなどのおみやげを買いました。そして観光バスは17マイルドライブウェイを回っていきました。この17マイルドライブの途中には、Bird Pointや、

Otter Pointなどがあって、そこで20分から30分位の休けいをとっています。だから私は、そのOtter Pointで、野生のラッコが早く見たくてしかたがありませんでした。そしてやっとOtter Pointについた時はまっ先に、カメラと8ミリを持ってバスから降りま



目を皿の 野生のラッコの生息地 モントレイの海 様にしてあっちの海、こっちの海と見たのですが、いるのはのんびり岩の上で昼寝をしているアザラシだけでした。ガックリした思いで私はガイドのせか



ラッコの替りに岩で昼寝をしていたアザラシ

す声でバスに乗りました。そしてバスはすべてのPointをまわり、出口へとさしかかる途中の事でした。バスの運転手が車中のみんなに向って大きな声で「Otter」とさげびました。車中の人々はみんな海岸に向っている窓の方に身をよせて、目をこらして海を見えています。私も窓のガラスにほほをおし当てて海を見ました。いました！ たしかに海の家草のうずまく中で、ラッコのあの独特の前肢の仕草が見えました。しかし残念な事に、カメラでラッコを撮る事は出来ませんでした。

## § すばらしい動物とすばらしい動物園での想いを胸に

アメリカでの動物園見学もすべて終り、毎日毎日が感激と驚きの連続でした。又、参考になる事も多く、とてもすばらしい日々を過ごしたと思います。アメリカの動物園の広大さと、すばらしい環境のもとで飼育されているすばらしい動物たちは、私的心中に深く焼きついて離れない事でしょう。

(飼育課：農本 武志)

## キーパーズ・アイ Keepers' Eye ⑫

### 『老いて益々盛ん』

永年連れそって来た連れ合いを亡くし“男やもめ  
にうじがわく”のたとえ通り淋しく  
余生を送って居たタンチョウの老オ  
ス。

このままでは可哀想と方々に後添  
候補を依頼して来たが、なかなか入  
手するのは難しかった。そんなところ  
へ北京から「日中友好親善交換動  
物」としてタンチョウのメスが贈ら  
れて来る事になった。待ちに待った  
花嫁が興入れてからの老オスは年の  
事など忘れ、羽づくろいをしたり花  
嫁に餌のドジョウを持っていったり  
大ハッスル。



翌年2卵を産卵してオス、メス交代で抱卵し、1卵  
は、残念ながら破卵し、もう1卵は  
無事フ化した。若くて未経験のメス  
は、オロオロするばかり、それに比  
べてオスの方は、そこは、「亀の甲  
より年の功」こまやかな愛情で、マ  
メに雛を育てていた。その後も毎年、  
2羽ずつ順調に繁殖を続け今では9  
羽の大家族。苦勞して花嫁を探した  
頃の事が嘘の様で、今では増え過ぎ  
て収容する場所に頭を悩ませる程で  
飼育係一同、嬉しい悲鳴をあげてい  
る。

(飼育課：三浦 正明)

### 『名投手“リカ”』

華やかな舞台を去って今ではチンパンジー舎の一  
室で余生を送っているチンパンジーの“リカ”。チンパ  
ンジー舎の前は何時でも人垣ができ  
彼らの所作ひとつひとつに入園者は  
喜び騒ぐ。悪質な入園者になると火  
の着いたタバコを投げ込み“リカ”  
がタバコを吸うのを見て拍手する。  
拍手されれば昔の華やかな舞台を思  
い出すのか得意になって煙を吹かす。

“リカ”が手を叩き愛嬌を振りま  
けば入園者は喜び菓子、ミカン等を  
投げる。“リカ”には、まだ悲しい  
芸人根性が抜け切れていない。

いつの頃からか入園者から物を貰  
うばかりでは厚かましいと思ったの  
か義理がたく、そのお返しに糞を投



げ返す事を覚えた。

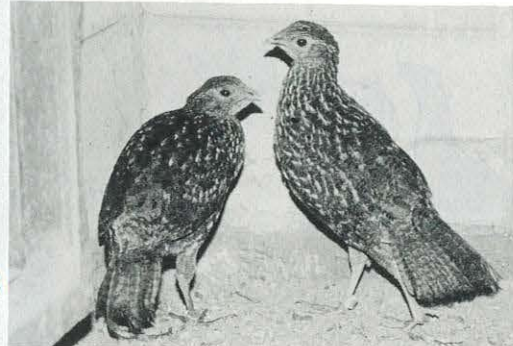
直球を投げて、アクリル板に当り人に当たらない  
ので投球方法を考案し変化球を投げ  
るようになった。その投球方法は白  
い牙をむき奇声を発し、地団駄を踏  
み糞ボールをつかみ横に走りながら  
山ボールを投げってくる。ボールは円  
を描きながら悪臭を放ち、飛んでく  
る。入園者は当るまいと蜘蛛の子を  
散らす様に逃げる。不運にもこのボ  
ールに当たると“うんのつき”。名投手  
“リカ”は今日も健在なり。

(飼育課：三浦 正明)

## 動物園ニュース

### ★ ベニジュケイのヒナを一般公開。

一昨年10月、上海の西郊公園から贈られたベニ  
ジュケイが昨年に続き、今年も産卵しました。昨年は  
産卵数も少なく、無精卵ばかりでしたが、今年は2  
羽のメスから計18個の卵を得ました。うち有精卵は  
10卵で、このなかの5月15日と6月22日に産卵され  
た2卵が日本で初めてフ化に成功しました。



気象条件のちがいで、ベニジュケイの卵はフ  
化しにくい上、ヒナも育ちにくいので、育雛室に収  
容し、慎重に飼育していましたが、順調に成長しま  
したので、9月27日から北園キジ舎にて一般公開し  
ました。

### ★ 秋の行事のお知らせ

10月14日～11月4日まで、動物たちとのふれあいを  
心ゆくまで楽しんでいただくため恒例の「秋の動物  
園まつり」が開かれます。期間中の日曜・祝日には



動物無料相談コーナー、遊戯、人形劇、動物ガイド  
など、もりだくさんの行事を予定しています。また、  
北園展示館では、「南極の写真・パネル展」を開催  
されます。同時に、この期間中、入園者に対し「ゴ  
ミのないきれいな動物園づくり」の協力を呼びかけ  
る「動物園クリーンキャンペーン」を実施します。

### ★ ボイラーの火入れ式

寒さに強い動物たちが暖かい冬を過ごすように

## くらしを彩るショッピング



**近鉄百貨店**

アベノ店 (06) 624-1111・上本町店 (06) 779-1231  
東京近鉄 (0422) 21-3331

・近鉄百貨店グループ

大阪(アベノ・上本町)・東大阪・奈良・京都・岐阜  
枚方・四日市・和歌山・徳山・別府・東京(吉祥寺)

# キーパーズ・アイ Keepers' Eye ⑫

『老いて益々盛ん』

永年連れそって来た連れ合いを亡くし“男やもめにうじがわく”のとえ通り淋しく余生を送って居たタンチョウの老オス。

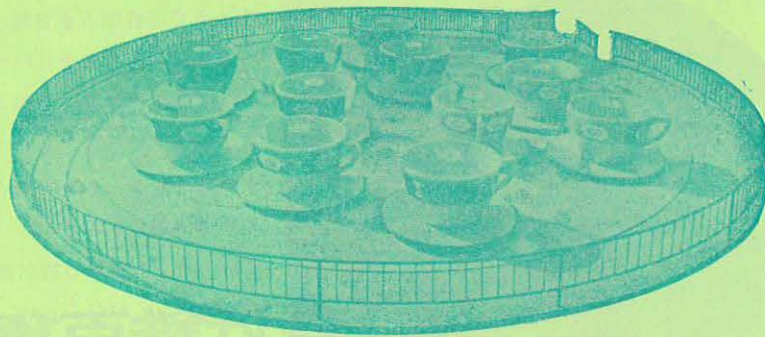
このままでは可哀想と方々に後添候補を依頼して来たが、なかなか入手するのは難しかった。そんなところへ北京から「日中友好親善交換動物」としてタンチョウのメスが贈られて来る事になった。待ちに待った花嫁が興入ってから老オスは年の事など忘れ、羽づくろいをしたり花嫁に餌のドジョウを持っていったり大ハッスル。



翌年2卵を産卵してオス、メス交代で抱卵し、1卵は、残念ながら破卵し、もう1卵は無事フ化した。若くて未経験のメスは、オロオロするばかり、それに比べてオスの方は、そこは、「亀の甲より年の功」こまやかな愛情で、マメに雛を育てていた。その後も毎年、2羽ずつ順調に繁殖を続け今では9羽の大家族。苦勞して花嫁を探した頃の事が嘘の様で、今では増え過ぎて収容する場所に頭を悩ませる程で飼育係一同、嬉しい悲鳴をあげている。

(飼育課：三浦 正明)

## 遊園施設委託経営・製作・販売



### 久竹 娛樂 株式会社

本社工場 大阪市西区北堀江1丁目23番21号  
電話 大阪(06)541-3112・3938 番

## 動物園ニュース

### ★ 秋の行事のお知らせ

10月14日～11月4日まで、動物たちとのふれあいを心ゆくまで楽しんでいただくため恒例の「秋の動物園まつり」が開かれます。期間中の日曜・祝日には

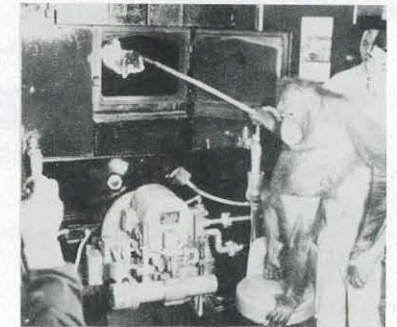


動物無料相談コーナー、遊戯、人形劇、動物ガイドなど、もりだくさんの行事を予定しています。また、北園展示館では、「南極の写真・パネル展」を開催されます。同時に、この期間中、入園者に対し「ゴミのないきれいな動物園づくり」の協力を呼びかける「動物園クリーンキャンペーン」を実施します。

### ★ ボイラーの火入れ式

寒さに弱い動物たちが暖かく冬を過ごせるように、毎年10月初めから翌春の5月中ごろまでの間、動物舎を暖房し、厳しい寒さから動物を守っています。

今年も10月1日にオランウータンの“さつきちゃん”が暖房用ボイラーの火入れ式をおこない安全操業を祈願しました。



### \* 休園日のお知らせ \*

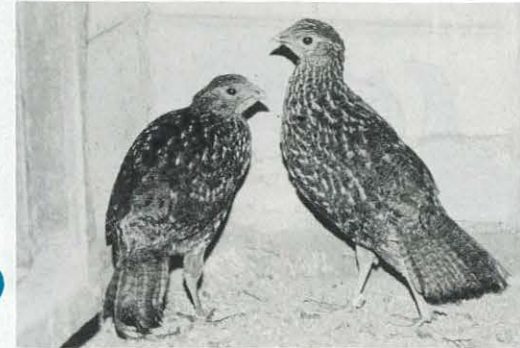
動物園の休園日は毎月第3月曜日です。来年1月までの休園日は下記の通りです。

10月15日、11月19日、12月17日、12月29日から1月1日、(年末年始)、1月21日、

開園時間は9時半～5時で、4時半に切符売止めになります。

### ★ ベニジュケイのヒナを一般公開。

一昨年10月、上海の西郊公園から贈られたベニジュケイが昨年に続き、今年も産卵しました。昨年は産卵数も少なく、無精卵ばかりでしたが、今年2羽のメスから計18個の卵を得ました。うち有精卵は10卵で、このなかの5月15日と6月22日に産卵された2卵が日本で初めてフ化に成功しました。



気象条件のちがいで、ベニジュケイの卵はフ化しにくい上、ヒナも育ちにくいので、育雛室に収容し、慎重に飼育していましたが、順調に成長しましたので、9月27日から北園キジ舎にて一般公開しました。

この2羽は共に性別はまだわかりませんが、入園者の人気者になりそうです。

### ★ 動物愛護週間



9月20日～26日の動物愛護週間にちなむ、いろいろな催物が開かれました。期間中は児童動物画並びに動物標語入選作品展や動物健康無料相談所の開設、マイクによる動物愛護の放送などがおこなわれました。

9月24日には、過去1年間に死亡した動物の霊を慰める動物総合感謝祭が行われ、参列者が次々と祭壇に玉串をささげ、“真打ち”に動物園代表として、オランウータンの“さつき”ちゃん(メス、9才)が登場、神妙な表情で玉串をさし出しました。

なきごえ 昭和54年10月15日発行(毎月1回15日発行)

編集／大阪市天王寺動物園

発行人／大阪市天王寺動物園協会 和田辰巳

印刷所／株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共)

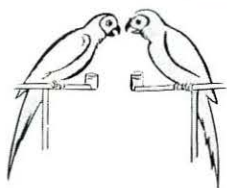
第15巻第10号(通巻170号)

〒543 大阪市天王寺区玉水町2

電話 大阪 (06)771-0201

振替口座 大阪 37823

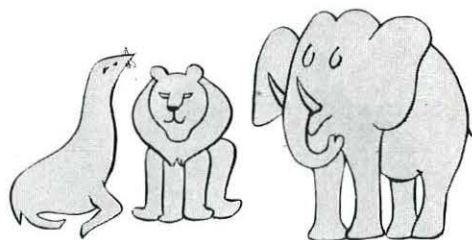
1年継続(12部)1,100円(送料共)



## 鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円



## 有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517

飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494



自然の  
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はいっさい含まれていません。



# 雪印ヨグール

各130c.c.=90円

パイン・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

編集委員

板野 健一・前木 妙子・大野 尊信・榊原 安昭・樽本 勲・中川 道朗・高橋 真三・農本 武志

石島 宏胤・野口 秀高・宮下 実・橋本 一郎・長瀬健二郎・三浦 正明・森谷 文彦・仲谷 登